

# 科学教育研究レター



## 目次

■ <b>理事会だより</b> .....1	■ <b>若手活性化委員会だより</b> .....17
日本科学教育学会第311回理事会報告	2024年日本科学教育学会研究会(若手活性化委員会開催) 予告
■ <b>学会賞</b> .....5	若手研究者, 「初心」を語る
第48回 年会発表賞の決定 ※一部修正あり	■ <b>編集委員会だより</b> .....21
■ <b>年会</b> .....7	2024年度第1回編集理事会報告
第49回年会 開催案内(第2次)	特集投稿募集のお知らせ(再掲)
■ <b>支部・研究会だより</b> .....9	「科学教育研究」編集状況報告
2024年度研究会開催のお知らせ ※一部修正あり	■ <b>広報委員会からのお知らせ</b> .....27
■ <b>調査研究・学術交流</b> .....12	
研究倫理に関するシンポジウムのご案内	
学会員が申請可能な助成金情報提供のお願い	
■ <b>国際交流委員会だより</b> .....14	
2024年度第1回日本科学教育学会研究会(国際交流委員会開催) 開催報告	
国際学会参加報告(75)	
国際学会開催情報	

日本科学教育学会第311回理事会報告

日時 2024年11月16日(土) 14:00~17:20

会場 オンライン会議

出席者 会長 隅田学

副会長 竹中真希子, 久保田善彦, 西村圭一

理事 松原憲治, 川上 貴, 松浦拓也, 山本容子, 山口悦司, 辻山洋介,  
舟生日出男, 川越至桜, 中村大輝, 土佐幸子, 小松孝太郎, 大谷 忠, 山本智一,  
大貫麻美, 舟橋友香, 竹内慎一

監事 稲垣成哲, 土田 理

幹事 黒田友貴

陪席 清水美憲, 谷塚光典, 森藤義孝

1. 議事要録(案)の承認

○第310回理事会議事録(案)を承認した。

2. 第311回理事会までの電子会議による審議事項と審議結果

○事務局からの発議により, 2024年9月30日までに入会を希望した7名と正会員からシニア会員への変更を希望した1名を電子会議により審査した結果, 全員の入会及び会員種別の変更が承認された(2024年10月3日).

○事務局からの発議により, 2024年10月31日までに入会を希望した15名と正会員からシニア会員への変更を希望した1名を電子会議により審査した結果, 全員の入会及び会員種別の変更が承認された(2024年11月5日).

3. 報告事項

1) 庶務・事務局

○事務局より文書受理(刊行物送付を含む)や諸対応について報告があった。

○各会務の年間スケジュールについて共有され, 理事会手帳の整理を進めることが確認された。

2) 経理・会員

○住所不明者について報告があった。

3) 機関誌編集

○オープンアクセスジャーナル化の検討のための専門部会の設置について報告があった。

○特集号を含めた編集状況について報告があった。

#### 4) 学会賞

- 第48回年会発表賞の投票状況について報告があった。
- 2025年度学会賞候補者の募集について報告があった。

#### 5) 支部・研究会

- 第1回研究会と第2回研究会について報告があった。
- 『研究会研究報告』の著作権使用許諾申請の承認について報告があった。

#### 6) 調査研究・学術交流・男女共同参画ワーキング

- 学会として申請可能な助成金について情報収集、整理し、会員に共有していく報告があった。

#### 7) 国際交流

- 第48回年会における国際ランチョン・ミーティングの開催について報告があった。
- 2024年度第1回研究会（国際交流委員会開催）の開催について報告があった。

#### 8) 年会企画

- 第48回年会（函館大学）会計業務の進捗について報告があった。
- 第49回年会（広島大会）準備状況について報告があった。

#### 9) 若手活性化〔舟橋・竹内〕

- 第48回年会における若手活性化委員会企画の実施について報告があった。
- 2024年度第2回研究会（若手活性化委員会開催）の準備状況について報告があった。
- 論文執筆支援の新規取組の準備状況について報告があった。
- SlackのNPO支援プログラム申請について報告があった。

### 4. 協議事項

#### 1) 庶務・事務局

- 学会運営関係データ等の管理に関する改善案について説明があり、学会として安全な管理に移行する方向で検討を進めることが承認された。
- 個別契約アカウント等の効率的運用に関する改善案について説明があり、各会務などで使用しているソフトウェアやサブスクリプションについて調査をおこなうことが承認された。

#### 2) 経理・会員

- 退会希望者が承認され、現在の会員数について確認された。

現在会員数：1,373名（正会員1,172名、学生会員110名、名誉会員21名、公共会員2名、賛助会員3名、シニア会員65名）（2024年11月6日付）

前回会員数：1,401名（正会員1,188名、学生会員123名、名誉会員21名、公共会員2名、賛助会員3名、シニア会員64名）（2024年9月10日付）

### 3) 学会賞

○令和7年度年会発表賞候補について、以下の4件を承認した。

◆イギリスの科学教科書における科学の社会的側面の理解を意図したタスクの特色

嶋田亘佑, 野村優成, 磯崎哲夫

◆リフレクションシートに対する生成系 AI フィードバックが大学生の学修に与える影響

中村謙斗, 山下雅代, 遠藤太一郎, 中田一朗太

◆科学的探究活動における知識の取り扱いーイギリスの PACKS project の理論的背景を事例にー

野村優成, 嶋田亘佑, 磯崎哲夫

◆STEAM 教育の視点から見た実社会の問題に取り組む企業の理念分析

吉村健志, 大谷忠, 金子嘉宏

○学会賞表彰規程の改定について説明があり、承認された。

### 4) 調査研究・学術交流・男女共同参画ワーキング

○学会員を対象とした調査の提案について説明があり、承認された。

○科学教育シンポジウムの企画について説明があり、実施が承認された。

### 5) 若手活性化

○2024年度第2回研究会における託児サービスの実施費用について説明があり、承認された。

### 6) 日本科学教育学会創立 50 周年記念事業企画・実行委員会

○JSSE 学会創立 50 周年記念事業企画・実行委員会委員について委員長より提案があり、承認された。

### 5. 次回以降の理事会予定

・第 312 回:2025 年 3 月 15 日 (土) 14:00 ~ 17:00 場所: ネット会議

・第 313 回:2025 年 6 月 14 日 (土) 14:00 ~ 17:00 場所: 株式会社内田洋行 新川第 2 オフィス

・第 314 回:2025 年 7 月 26 日 (土) 14:00 ~ 17:00 場所: ネット会議

・第 315 回:2025 年 9 月 5 日 (金) 時間未定 場所: 広島大学東広島キャンパス

## 第 48 回 年会発表賞の決定

学会賞選考委員会では、第 48 回年会発表賞について、会員からの推薦にもとづいて慎重に審議を重ね、候補者の選考を進めてまいりました。2024（令和 6）年 11 月 16 日に開催された第 311 回理事会の議を経て、下記 4 件が 2024 年度年会発表賞に選ばれました。誠にありがとうございます。「\*」は現在非会員の方ですが、2025 年 2 月末までに入会された場合は受賞対象となります。

発表者：嶋田亘佑（広島大学大学院，日本学術振興会特別研究員（DC2））・野村優成（広島大学大学院，日本学術振興会特別研究員（DC2））・磯崎哲夫（広島大学大学院）

発表論文：イギリスの科学教科書における科学の社会的側面の理解を意図したタスクの特色，日本科学教育学会第 48 回年会論文集，439-442，2024

選定理由：イギリスの新しい教科書から科学教育指針に関する論点を抽出しており，学会員に広く有益な情報を提供している。研究対象・結果・方法が高い水準にあり，独創性，発展性，応用性がある。

発表者：中村謙斗（東京学芸大学子ども未来研究所，東京理科大学大学院）・山下雅代（東京学芸大学先端教育人材育成推進機構）・\*遠藤太郎（株式会社カナメプロジェクト，東京学芸大学教育支援協働実践開発専攻）・\*中田一朗太（東京学芸大学先端教育人材育成推進機構） ※初版から修正

リフレクションシートに対する生成系 AI フィードバックが大学生の学修に与える影響

日本科学教育学会第 48 回年会論文集，539-542，2024

選定理由：大学生のデータサイエンス学修に対する AI を活用したフィードバックについて実証的に検討しており，独創性，応用性，発展性がある。

発表者：野村優成（広島大学大学院，日本学術振興会特別研究員（DC2））・嶋田亘佑（広島大学大学院，日本学術振興会特別研究員（DC2））・磯崎哲夫（広島大学大学院） ※初版から修正

科学的探究活動における知識の取り扱い：イギリスの PACKS project の理論的背景を事例に

日本科学教育学会第 48 回年会論文集，743-744，2024

選定理由：イギリスの PACKS プロジェクトの報告書を丁寧に読み解き，科学的探究における方法知の側面を再評価しており，応用性がある。

発表者：吉村健志（東京学芸大学大学院）・大谷忠（東京学芸大学大学院）・\*金子嘉宏（東京学芸大学）

発表論文：STEAM 教育の視点から見た実社会の問題に取り組む企業の理念分析

日本科学教育学会第 48 回年会論文集，425-426，2024

選定理由：STEAM 教育を企業理念という視点から捉え，学校での探究活動と社会における創造活動との関係を探っており，新規性がある。

## 2025（令和7）年度学会賞候補者の募集

一般社団法人日本科学教育学会 大塚賞，同学術賞，同国際貢献賞，同論文賞，同科学教育実践賞，同功労賞，及び同奨励賞の候補者を下記により募集します。会員の皆様からの多数の推薦をお願い申し上げます。

### 1. 推薦期限

2025年（令和7年）5月12日（月）（必着）

### 2. 推薦資格

- (1) 推薦者は会員とする。
- (2) 会員は、各賞について、それぞれ1件のみ推薦できる。
- (3) 各賞の推薦は他薦のみとする。
- (4) 推薦者は、推薦書の様式を学会ホームページ（「各書式」からダウンロード可）で、入手の上、その様式にしたがって作成した推薦書を学会事務局に提出する。

### 3. 受賞資格

一般社団法人日本科学教育学会 学会賞表彰規程（<https://jsse.jp/regulation/26-2>）を参照する。

\*奨励賞の受賞資格にご注意ください。

### 4. 受賞件数

各賞の受賞件数は特に定めない。

### 5. 選考

会員からの推薦に基づいて、学会賞選考委員会が候補者を選定し、理事会が決定する。

### 6. 賞

- (1) 本賞は賞状とする。
- (2) 賞の贈呈は、2025年度代議員総会において行う。

### 7. 備考

論文賞の対象は、『科学教育研究』Vol.46, No.2以降に掲載の論文とする。

奨励賞の対象は、『科学教育研究』Vol.47, No.2以降、『研究報告』Vol.37, No.6以降及び第47回・第48回年会論文集に掲載の論文等とする。

## 第 49 回年会 開催案内（第 2 次）

年会企画委員会・年会実行委員会

1. 日程：2025 年 9 月 5 日（金）～7 日（日）（3 日間を予定）
2. 会場：広島大学教育学部  
（〒739-8524 東広島市鏡山一丁目 1 番 1 号）  
<https://www.hiroshima-u.ac.jp/acces>
3. スケジュール概要（予定） ※プログラム編成により変更になる場合があります。  
5 日（金） 午前：研究発表  
午後：研究発表 理事会 顧問・理事・支部長・代議員合同会議  
6 日（土） 午前：研究発表 招待講演  
午後：代議員総会・表彰 シンポジウム（記念講演（予定）を含む） 懇親会  
7 日（日） 午前：研究発表  
午後：研究発表（申し込み状況により設定）  
\*その他、各委員会による企画、各委員会の会合等があります。
4. 発表申込等について  
研究発表（課題研究発表，一般研究発表，インタラクティブセッション）の申込・原稿提出のスケジュールは，次号『科学教育研究レター』等でお知らせします。
5. 連絡先：日本科学教育学会第 49 回年会実行委員会  
E-mail：jsse49[at mark]hiroshima-u.ac.jp  
※[at mark]を@に変換して送信してください
6. 第 49 回年会実行委員会  
委員長 馬場卓也（広島大学大学院人間社会科学研究科）  
委員 磯崎哲夫（広島大学大学院）・清水欽也（広島大学大学院）・影山和也（広島大学大学院）・木下博義（広島大学大学院）・真野祐輔（広島大学大学院）・松浦拓也（広島大学大学院）・富川光（広島大学大学院）・三好美織（広島大学大学院）・谷田親彦（広島大学大学院）

## 7. 年会企画委員会

委員長 服部裕一郎（岡山大学）

副委員長 福田博人（岡山理科大学），畠山 久（東京科学大学）

幹 事 石橋一昂（岡山大学）

担当理事 大谷 忠（東京学芸大学），山本智一（兵庫教育大学）

委 員 安部洋一郎（兵庫大学），新井しのぶ（中村学園大学），岡部 舞（大阪教育大学），  
小野寺かれん（京都光華女子大学），川崎弘作（岡山大学），木村優里（東京科学大学），  
小泉健輔（横浜国立大学），下郡啓夫（函館工業高等専門学校），平林真伊（山形大学），  
増田有紀（埼玉大学），谷田親彦（広島大学），山中真悟（福山市立大学），  
山本輝太郎（金沢星稜大学）

2024 年度研究会開催のお知らせ

今後の開催計画

開催支部/委員会	開催日	発表申し込み締切日	会場
国際交流委員会	終了しました	終了しました	オンライン
若手活性化委員会	2024 年 12 月 21 日 (土)	終了しました	大阪教育大学天王寺 キャンパス および オンライン
九州沖縄支部	2025 年 2 月 22 日 (土)	2024 年 1 月 13 日 (月)	中村学園大学
南関東支部	2025 年 3 月 9 日 (日)	2025 年 1 月 28 日 (日)	オンライン
東海支部	2025 年 5 月 18 日 (日)	調整中 2025 年 4 月 1 日(火) ※初版から修正	静岡大学
北海道支部	2025 年 6 月 15 日 (日)	2025 年 5 月 6 日 (日)	オンライン

研究会に関する最新情報は学会 Web ページに掲載しますので、ご確認ください。

※右の QR コードより、学会 Web ページ（研究会案内）にアクセスできます。

<https://jsse.jp/1-3>



2024 年度 第 3 回日本科学教育学会研究会（九州沖縄支部開催）

[テーマ] 科学教育における授業研究のメタ理論

[主催] 一般社団法人 日本科学教育学会

[日時] 2025 年 2 月 22 日 (土) 10:00~17:00

[会場] 中村学園大学 2 号館 2604 教室(A 会場)及び 2605 教室(B 会場) (対面開催)

〒814-0198 福岡県福岡市城南区別府 5 丁目 7 番 1 号

**\*学内の駐車場は利用できません。周辺の駐車場を利用してください。**

アクセスマップ URL : <https://www.nakamura-u.ac.jp/outline/access.html>

キャンパスマップ URL : <https://www.nakamura-u.ac.jp/outline/map.html>

[対象] 会員、教員、学生、社会人

[参加] 発表の有無にかかわらず参加できます。会員でない方もご参加いただけます。

参加費は無料です。

[参加・発表申込み先] 下記のフォームから発表・参加の申し込みをお願いします。

発表・参加申し込み URL: <https://forms.gle/cvd8A8RuRW54B6Rz6>

[発表申込・論文提出締切]

・発表は、単名または連名発表者に 1 名以上の会員を含むことが条件。発表申し込み時に「入会申し込み」が完了していれば、会員として扱う。

・原稿執筆要項 : <https://jsse.jp/1-3/115-2>

・研究会研究報告のテンプレート : <https://jsse.jp/1-3/125-2>

・発表申し込み締め切り： 2025年1月13日(月)

・原稿投稿料の支払いと原稿の提出締切：2025年2月2日(日)

・投稿先：<https://jsse-kenkyukai-form.jp/>

\*研究会情報のプルダウンメニューで「九州沖縄支部」を選んでください。投稿完了メールは <info(atmark)jsse-kenkyukai-form.jp>より自動送信されます。このアドレスからのメールを受信できるように、あらかじめフィルタ設定等をご確認ください。アドレスの(atmark)の部分は@です。

\*原稿提出が指定の期日に遅れますと、投稿できなくなり、自動的に取り消しとなります。

また、原稿投稿料の振り込みが指定の期日に遅れますと、発表できませんのでご注意ください。

\*研究会情報のプルダウンメニューで「九州沖縄支部」を選んでください。

[問い合わせ先]

〒811-4192 福岡県宗像市赤間文教町1番1号

国立大学法人 福岡教育大学 理科教育研究ユニット

e-mail: morifuji(atmark)fukuoka-edu.ac.jp (森藤義孝)

日本科学教育学会研究会・企画編集委員：森藤義孝

多数の方々の申込をお待ちしております。

日本科学教育学会 九州沖縄支部長 森藤義孝 (福岡教育大学)

## 2024年度 第4回日本科学教育学会研究会 (南関東支部開催)

[テーマ] 持続可能な社会をめざす科学教育

[主催] 一般社団法人 日本科学教育学会

[日時] 2025年3月9日(日) 10:30~18:00(予定)

[会場] オンライン開催

[対象] 会員, 教員, 学生, 社会人

[参加申込・締切] 発表の有無にかかわらず参加できます。会員でない方もご参加いただけます。

参加費は無料です。下記の Google フォームから「参加申込」をお願いいたします。

〈URL: <https://forms.gle/6mw1gh1FwH57ZKDYA>〉

参加申込締切は、2月28日(金)です。

申込多数によりオンライン開催可能な人数を超過した場合、上記前に受付終了となる場合がありますので、予めご了承ください。

3月2日(日)頃に、Zoomの接続情報をメールでご連絡いたします。

[発表申込・論文提出締切]

・発表は、単名または連名発表者に1名以上の会員を含むことが条件となります。発表申し込み時に「入会申し込み」が完了していれば、会員として扱うこととします。

・発表希望の方は、下記の Google フォームから「発表申込」をお願いいたします。

〈URL: <https://forms.gle/6mw1gh1FwH57ZKDYA>〉

・発表申込締切は、2025年1月28日(火)です。

・研究会研究報告の原稿執筆要項は学会ホームページをご参照ください。

〈<https://jsse.jp/1-3/115-2>〉

・研究会研究報告のテンプレートは学会ホームページをご参照ください。

〈URL : <https://jsse.jp/1-3/125-2>〉

- 原稿投稿料の支払いと原稿の提出締切は、2025年2月17日（月）です。  
次のウェブサイトから投稿してください。

〈<https://jsse-kenkyukai-form.jp/>〉

研究会情報のプルダウンメニューで「南関東支部」を選んでください。

- 投稿完了メールは〈[info\(atmark\)jsse-kenkyukai-form.jp](mailto:info(atmark)jsse-kenkyukai-form.jp)〉より自動送信されます。このアドレスからのメールを受信できるように、あらかじめフィルタ設定等をご確認ください。アドレスの(atmark)の部分は@です。
- 原稿提出が指定の期日に遅れますと、投稿できなくなり、自動的に取り消しとなります。また、原稿投稿料が指定の期日に遅れますと、発表できませんのでご注意ください。

[問い合わせ先] E-mail 〈[fukui\(atmark\)azabu-u.ac.jp](mailto:fukui(atmark)azabu-u.ac.jp)〉

年度末のご多忙の時期ですが、多数の方々の参加・発表申込を、お待ちしております。

日本科学教育学会 南関東支部長 福井智紀（麻布大学）

## 研究倫理に関するシンポジウムのご案内

近年、研究倫理の重要性がますます高まっています。科学教育の分野においても、研究活動を公正かつ透明性のある形で進めるためには、研究倫理の遵守が不可欠です。しかしながら、日本科学教育学会では現在のところ、明確な研究倫理規定が設定されておらず、その整備に向けた議論が求められています。このような課題意識を踏まえて、科学教育の分野における研究倫理の諸問題について議論するシンポジウムを開催いたします。

科学教育の研究を行う上では様々な倫理的問題が発生する可能性があります。それらの問題は、多くの分野に共通する問題もあれば、科学教育の分野に固有の問題も存在します。例えば、研究実施における調査協力者の同意やプライバシー保護、研究結果の透明性、利益と危害の調整などには、科学教育に固有の側面があるのではないのでしょうか。これらの問題に適切に対処するためには、他分野の関連動向も参照しながら、科学教育の分野に固有な研究倫理に関する議論の蓄積が必要です。

本シンポジウムでは専門の異なる登壇者の発表と参加者の議論を通して、共通性と固有性の視点から科学教育の分野における研究倫理の諸問題について検討します。研究者のみならず、科学教育に関わるすべての関係者が安心して研究活動を進められるよう、皆様の参加を心よりお待ちしております。

### テーマ

科学教育研究における研究倫理を考える

### 日時

2025年3月15日（土曜）10:00-12:00

### 形式

Zoomを用いたオンライン開催。言語は日本語。

申し込みフォーム：<https://forms.gle/W7ejvAhd4A3MFhzv9>



### 対象者

日本科学教育学会会員のみ（参加費無料）

### 登壇者

- 木村 優里 先生（東京科学大学）：科学教育研究のオープンアクセス化に関する検討と研究倫理
- 中村 大輝 先生（宮崎大学）：科学教育に特有の研究倫理問題
- 中野 広輔 先生（愛媛大学）：人を対象とする生命科学に関する研究倫理

### 主催

一般社団法人 日本科学教育学会（調査研究・学術交流担当，編集委員会共催）

調査研究・学術交流担当：中村大輝（宮崎大学），川越至桜（東京大学）

## 学会員が申請可能な助成金情報提供のお願い

現在、調査研究・学術交流担当では、本学会の会員が申請可能な助成金の情報を収集・整理し、カレンダー形式で学会 HP 上に掲載することを目指しております。本学会は学際的で広範な専門分野の会員により構成される学術団体です。そこで、本学会に関連する助成金の情報を広く収集し、学会員に発信していくことにより、キャリア向上やネットワーク拡大、学会の会員基盤の強化に貢献したいと考えております。つきましては、学会員が申請可能な助成金についての情報を募集いたします。

現在までに把握している助成金は以下の URL の通りです。こちらは、皆様からの情報提供を反映する形で随時更新されます。

[https://docs.google.com/spreadsheets/d/1XK0uUQFL-5Qt3nwrKQS-AB\\_eDwpBtMKqErgTAVHBH0c/edit?usp=sharing](https://docs.google.com/spreadsheets/d/1XK0uUQFL-5Qt3nwrKQS-AB_eDwpBtMKqErgTAVHBH0c/edit?usp=sharing)

上記 URL に記載のない助成金で本学会の会員が申請可能なものをご存知の場合は、以下のフォームから情報提供をお願いいたします。

<https://forms.gle/uaDpCwqry56ZQ3DE7>



皆様から頂きました情報を基に、助成金カレンダーの作成・公開を進めてまいります。皆様のご協力をお願いいたします。

2024 年度第 1 回日本科学教育学会研究会（国際交流委員会開催）

開催報告

2024 年度第 1 回研究会（国際交流委員会開催 英語による研究会）を 2024 年 11 月 16 日（土）の午前にオンライン（Zoom 利用）で開催し、50 名程度の方にご参加いただきました。

昨年に引き続き、海外の研究者 2 名によるゲストトークと一般発表で構成しました。ゲストトークでは、State University of Semarang, Indonesia の Arif Widiyatmoko 先生と Ahmad Dahlan University, Indonesia の Rully Charitas Indra Prahmana 先生にご登壇いただきました。

Arif 先生には、科学教育における ICT の活用というテーマで、ICT の定義、ICT 活用の例、ICT 活用の利点と欠点等についてご講演いただきました。Rully 先生には、民族数学と現実的数学教育論の統合について、インドネシアの伝統的な文化を事例としてご講演いただきました。

一般発表では、14 件の英語による発表があり、3 つのブレイクアウトルームに分かれて活発な議論がなされました。多くの留学生にもご参加いただき、国際的な視点で科学教育の課題を議論する貴重な機会となりました。

アンケート結果も非常に好評であり、質疑の時間の十分な確保による議論の活性化など、今後に向けて大切なご意見もいただきました。こうしたご意見は、国際交流委員会として、研究会の充実を図る視点から今後検討していきたいと考えております。

最後になりましたが、今回の研究会の開催にあたりご協力いただきました支部研究会の理事の皆様、隅田会長、そして発表者・参加者の皆様に感謝申し上げます。

担当：小松孝太郎（筑波大学）

## 国際学会参加報告(75)

### EASE-ICMScE Joint International Conference 2024

2024年6月8・9日にインドネシア(バンドン)で開催されたEASE-ICMScE Joint International Conference 2024に参加しました。今年はEast-Asian Association for Science Education (EASE)とInternational Conferences on Mathematics and Science Education (ICMScE)の合同開催であり、「持続可能な開発目標のための重要な基盤としての理数教育の強化」がテーマに掲げられていました。本国際会議には主にインドネシア、日本、韓国、中国本土、香港、台湾、タイなどの東アジアの研究者・学生が参加し、研究発表および活発な議論が行われました。

今回の学会では、参加者による多数の研究発表がなされたことはもちろん、7名ものKeynote Speakerの先生方、そして11名ものPlenary Speakerの先生方からお話を伺える時間を用意いただき、幅広いトピックについて知ることが出来る貴重な機会となりました。特に、Hyoung-Yong Park先生が取り上げられていた「教育分野における生成AIの活用」といった話題は大変興味深いものでした。具体的事例を踏まえつつ、学習の個別最適化や自動評価・フィードバックといった生成AIの可能性に言及されており、数年～数十年先の教育界の様子に期待が膨らむものでした。

今回の合同国際会議への参加を通して、学術的な学びの広がり・深まりがあったことに加え、同世代の海外の大学院生とつながりを持てたという点で特に有意義であったと感じています。また、日本から参加されている先生方も多数いらっしゃり、国際会議ながらもアットホームな雰囲気の中、発表が行えたことが印象的でした。これまでにたくさんの国際学会に参加されている方はもちろん、初めての国際学会に参加する方(特に学生の皆様)にもおすすめできる国際学会のように思います。

次回EASEは2026年6月25日～27日に香港で開催予定であることがアナウンスされました。ご興味・ご関心のある方はご参加を検討されてみてはいかがでしょうか。



開会式で披露された伝統舞踊



発表の様子

(工藤壮一郎・広島大学大学院)

## 国際学会開催情報

### 2025年

#### **ASTE 2025 Annual Conference**

開催地：Westin Long Beach, CA, USA

期間：2025年1月13日-1月19日

<https://theaste.org/meetings/2025-international-conference/>

#### **The 14th Congress of the European Society for Research in Mathematics Education (CERME14)**

開催地：Bozen-Bolzano, Italy

期間：2025年2月4日-2月8日

発表エントリー締切り：2024年9月15日

<https://www.cerme14.it>

#### **NARST 2025 Annual International Conference**

開催地：Gaylord National Resort & Convention Center, MD, USA

期間：2025年3月23日-3月26日

<https://narst.org/conferences/2025-annual-conference>

#### **2025 Conference ASERA (Australian Science Education Research Association)**

開催地：Melbourne, Australia

期間：2025年7月1日-7月4日

<https://www.asera.org.au/2025-conference/>

#### **The 9th ICMI-East Asia Regional Conference on Mathematics Education (EARCOME9)**

開催地：Seoul, Korea

期間：2025年7月18日-7月22日

<https://www.earcome9.org/>

#### **48th Conference of the International Group for the Psychology of Mathematics Education (PME48)**

開催地：Santiago, Chile

期間：2025年7月28日-8月2日

<https://eventos.cmm.uchile.cl/pme48/>

#### **ESERA (European Science Education Research Association) Conference 2025**

開催地：Copenhagen, Denmark

期間：2025年8月25日-8月29日

<https://www.esera.org/conference-2025/>

2024年 日本科学教育学会研究会(若手活性化委員会開催) 予告

若手活性化委員会が担当する研究会は、2024年12月21日(土)に大阪教育大学天王寺キャンパスにて開催します。発表申込みの受付は終了しましたが、参加のみの場合は対面/オンラインを問わず当日まで申込みできます。

[テーマ] 次世代の科学教育研究

[主催] 一般社団法人 日本科学教育学会

[日時] 2024年12月21日(土) 10:00-17:00(予定), 9:30-10:00 受付

[会場] 対面開催(一部オンライン)

大阪教育大学天王寺キャンパス みらい教育共創館  
〒543-0054 大阪府大阪市天王寺区南河堀町4-88番

[対象] 会員, 非会員

[参加] 発表の有無にかかわらず参加可能, 参加費無料

・研究会 URL : <https://jsse.jp/workgroup/2024-02>

・参加申込 URL : <https://forms.gle/zRtuMg8BCTFXMG2XA>

[概要]

午前: 若手活性化委員会による企画

企画① シンポジウム

「できる研究者の論文生産術: どうすれば先生のようにたくさん書けるのか?」

登壇者 加納圭 先生(滋賀大学)

岡本紗知 先生(大阪大学)

上ヶ谷友佑 先生(広島大学附属福山中・高等学校)

企画② ブース形式の交流会「JSSE 若手大交流会」

設置されたブースを自由に移動しながら, テーマに沿って他の参加者と交流します。

ブースのテーマは以下の通りです。

シンポジウム深堀り/学会首脳陣と話そう/キャリア形成について話す/学生交流/授業作り  
相談/タイムマネジメントについて考える

午後: ポスター発表

発表申込みをしていただいた参加者による研究発表です。65件(対面54件, オンデマンド11件)の発表があります。

オンデマンド会場: オンデマンド発表者による10~15分程度の発表動画の視聴ができ, コメントのやりとりができます。また, 対面発表者が研究会に先立って作成した動画(3~10分程度)も視聴可能です。会場へのアクセス方法は参加申込みをいただいた方にお知らせします。

オンデマンド会場は, 研究会終了後も1ヶ月間オープンになっており引き続き交流できます。当日会場に来られない方も, ぜひご参加ください。

## <若手活性化委員会による論文執筆支援>

前号での案内の通り、若手活性化委員会では、論文執筆を支援するために次の2つを新たな試みとして実施することとしました。

### (1) 論文執筆 Tips 動画シリーズ

論文執筆をサポートするための動画シリーズを作成・公開し、経験者が論文執筆のための有益なアドバイスを提供することで、学会誌等の採択率を高めることを目指します。動画という形式をとることから、関心のある人がいつでもアクセスできる点、また継続的に活用が可能な点において優れていると考えられます。2024年10月以降、論文執筆の経験が豊富な研究者らに協力を依頼し、2025年度末までに20動画程度の作成を目指します。現時点では、試験的に作成した下記の動画4本を公開しています。

1. <https://youtu.be/7tj8NfRp628> (文章の書き方：作成・岡本)
2. <https://youtu.be/owCZuTNdZcc> (先行研究の調べ方：作成・雲財)
3. <https://youtu.be/Ul7QcHY9gC0> (本の読みかた-説明編：作成・長沼)
4. <https://youtu.be/ngcxkdCpAbM> (本の読みかた-デモ編：作成・長沼)

### (2) 論文執筆対面サポート【定員に達したため今回の受け付けは終了しました】

本研究会は学会機関誌『科学教育研究』の特集「次世代を担う若手研究者の科学教育研究」と連携しています。また研究会の翌日には、論文投稿経験の浅い人たちに向けて、より集中的な対面による論文執筆支援を実施します。対象は参加希望者10名程度とし、ゼミ形式で実施する予定です。詳細は、学会HPでご確認ください。

## <その他>

研究会に関わる情報は学会HPのほか、若手活性化委員会 Facebook ページやメーリングリストで随時公開していきます。どうぞご期待ください。

Facebook ページやメーリングリストの登録は、随時、受け付けています。ぜひご登録ください。

○若手活性化委員会 Facebook

<https://www.facebook.com/jssewakate/>

○JSSE 若手研究者メーリングリスト登録 URL

<https://goo.gl/tClQb4>

(高知大学：袴田綾斗)

## 若手研究者,「初心」を語る

人は、習慣に根ざして、意味を付与する存在であるとデューイはいいます。しかし、自己の習慣に自覚的になることは、容易ではありません。本コーナーは、他者の語る「初心」が、自己の習慣を省みるきっかけになるのではないかという思いで展開してきました。今回は、若手活性化担当理事に就任された竹内慎一先生にご寄稿いただきました。竹内先生はこれまで、NHKのチーフプロデューサーとして、番組制作というアプローチで科学教育に取り組んでこられました。

学習者をか弱き存在と思ひ込み、手を差し伸べる営みがあるとすれば

それは〈傲慢さ〉から来てはいないか？

この問いかけを、読者の皆様はどのように受け止めるでしょうか。

## 初めは「教育」は嫌いでした

NHK エデュケーショナル 竹内慎一

放送局に就職して、これまでいくつかの科学教育番組を企画し制作してきた。またその過程で、科学教育に関わる多くの研究者の方々のお知恵を借り、ともに「つくる」経験をさせていただく機会も多かった。本稿では筆者が科学教育に関わるようになった経緯と、その過程で感じたこと、考えたことについて書いてみることにする。

学部と修士では動物生態学を専攻した。キャンパスにいるよりも山奥にテントを担いで入り、ひたすら溪流に棲む昆虫の生態を観察する時間の方が長かった。この頃出会ったのが科学コミュニケーションという考え方だ。当時、かなり興奮しながら、青山にある国連大学まで英文の資料を借りに行き、話を伺った記憶がある。科学あるいは科学することのおもしろさを伝える仕事ができないか。放送局に入ったのはそう考えたからだった。

入局して最初に配属されたのは教育番組をつくる部署。小学生向けの理科番組をつくることになった。しかし、正直に言うと、初め、教育にはあまり関心がなかった…というよりも、むしろ、漠然とした忌避感さえ抱いていた。親も含め近い親戚に小中大の教員がおり、「教育」は身近な存在だったにもかかわらずだ。おそらくそれは「教育」という言葉の持つ、ある種の上から目線あるいは傲慢さのようなものを感じていたからではないかと思う。

例えば、学校は教育の場というより、本来は学びの場であり、その主体は子どもであるはずだ。しかし、多くの場合、学ぶべきことは教員が渡す教科書の中にあり、そこに児童や生徒が口をはさむ余地はない。また、校内を見渡すと、そこにあるのは、教室、教科書、教壇、教科、そして教師と、教える側が主語の言葉がほとんどだったりもする。もちろん近年、学習者主体の学びという考え方が浸透してきたこともあり、そうした実態は少なくなっているかもしれない。だが、少なくとも当時の自分はある種の違和感を感じていた。

しかし、こうした忌避感・違和感は、徐々に薄らいでいった。NHKの教育番組は、現場の先生方はもちろん、文科省の教科調査官、視学官、大学の研究者の方々と日常的に対話し、ご意見を伺いながら作っていく。その過程で「教育」に関わる方々の、子どもたち自身の「学び」を大切にしたいという想いや、

そのための工夫の数々にふれることができた。「わかりやすく伝えるだけが教育ではない」「わからないことはわからないと言っていい」「教えない教育」といった考え方は、最初に筆者が目指していた科学コミュニケーションとも矛盾しないことも（今から考えるとあたりまえだが）わかってきた。

研究者の方々とのコラボレーションを始めたのもこの頃だ。2000年代初めには、放送とネット上の掲示板を連動させた学校間協働学習の試みを宮崎大学の中山迅先生、山口悦司先生（当時）や、神戸大学の稲垣成哲先生、竹中真希子先生、出口明子先生（当時）らとともにいった。これは、番組を「導入」の回と「発表の場」の回の2種類に分け、「導入」の回を視聴した全国の子どもたちの対話を掲示板で視覚化し、さらにその成果を「発表の場」の放送回で紹介することで、子どもたちの学びの動機づけや協働をねらったものだ。当時はまだテレビに出ること自体が動機づけになる部分もあり、教育番組としてはかなり多くの反響があった。2010年代には、「考えるカラス～科学の考え方」「カガクノミカタ」といった科学教育番組を、当時、京都大学にいらした加納圭先生、水町衣里先生、塩瀬隆之先生らのお知恵もいただきながら開発し、連動するワークショップなどの実践研究にもつなげていただいた。

こうして、教育に関わるようになっておよそ30年。本学会にも初めて参加させていただいてからもう16年になる。初めは忌避感のあった「教育」に、これほど長くかかわるとは自分でも考えていなかったが、多くの研究者の方々と出会い、お話を伺う中で、現在は「(科学)教育」が自分の中でとてもやりがいのあるフィールドとなっている。今は（カッコつきですが）「教育」が大好きです。

### 2024 年度第 1 回編集理事会報告

2024 年度第 1 回編集理事会は、2024 年 10 月 29 日に、オンライン会議システム Zoom を利用した遠隔会議で開催された。2024 年度からの新しい編集理事会の体制での初めての開催であった。まず、オープンアクセスジャーナル化の検討のための専門部会の設置が承認された。専門部会の構成は、部会長が木村優里・副委員長、副部会長が石橋一昂・副委員長、部会委員が加納圭・前編集担当理事、青山和裕・編集委員長、内ノ倉真吾・編集担当理事、山口悦司・編集担当理事である。続いて、調査研究・学术交流担当理事から依頼があった研究倫理に関するシンポジウム企画について、本企画を編集委員会との共催にすること、編集委員会からの登壇者として木村優里・副委員長を選出・推薦することが承認された。さらに、第 49 巻の巻頭言の執筆者が決定された。

その後、特集「次世代を担う若手研究者の科学教育研究（2024 年 12 月発刊予定）」（第 48 巻，第 4 号）の編集状況、特集「データサイエンスと科学教育（2025 年 6 月発刊予定）」（第 49 巻，第 2 号）の準備状況、特集「次世代を担う若手研究者の科学教育研究（2025 年 12 月発刊予定）」（第 49 巻，第 4 号）の準備状況、「科学教育研究」全体の編集状況、S1M（ScholarOne Manuscripts）利用ジャーナルに関する投稿・審査状況データおよびアンケート集計結果、学術著作権協会・AI 利用に係る権利委託の検討状況などが報告された。併せて、継続協議事項、今後の編集理事会・編集委員会の予定、科学教育研究レター・学会通信発行予定についての確認などが行われた。

次回の編集理事会は、2025 年 3 月に、遠隔会議での開催が予定されている。

## 特集投稿募集のお知らせ（再掲）

編集委員会では、若手活性化委員会と連携し、下記の主旨で「科学教育研究」第49巻第4号での特集を企画します。研究論文、総説・展望、資料、プラザ、全ての種別の原稿を募集いたします。ふるってご投稿のほどお願い申し上げます。

なお、投稿規程により、「科学教育研究」への投稿論文は、筆頭著者が日本科学教育学会の会員である必要があります。また、この特集には投稿条件が設定されています。その点ご注意ください。

編集委員長 青山和裕  
特集編集部部长 山本輝太郎  
若手活性化委員会委員長 岡本紗知

記

特集名：次世代を担う若手研究者の科学教育研究

将来の科学教育研究を牽引する人材を本学会から輩出することを大きな目的として、また若手研究者のキャリアパス形成を支援することを目的として、若手会員を対象とした特集（以下、若手特集と称する）によって若手会員の研究活動を支援する取り組みが2017年に始まった。2024年で8回目となる。これまで多くの若手会員に研究会発表と論文投稿を促し、『科学教育研究』第42巻以降の各巻第4号に、多くの若手会員の研究成果を掲載してきた。2024年も若手特集によって若手会員の研究活動のさらなる支援と、研究成果の公表機会の提供を行う。

これまでの若手特集では、若手活性化委員会の下部組織としてサブミッション・アドバイザーボードを設置し、若手特集への投稿希望者に対する助言を組織的に実施してきた。今回の若手特集では、論文投稿支援の実施体制をリニューアルする計画である。具体的には、従来のサブミッション・アドバイザーボードを発展的に解消し、若手活性化委員会による論文投稿支援方策の新たな試みを実施する予定である。具体的には、①論文執筆に関する動画集の公開、②論文執筆のための対面サポート、という点の取り組みに新たに着手する。ただし、これらの支援を受けることは、あくまで任意であり、今回の若手特集の投稿条件ではない。若手活性化委員会による論文投稿支援の詳細については、若手活性化委員会からの各種案内をご参照いただきたい。

なお、若手特集編集部会メンバーは過去の若手活性化委員会構成員を中心に構成し、若手活性化委員会による論文投稿支援者と若手特集における査読者の重複を避けるという、これまでの方針を継承することで、若手会員の研究活動支援及び本学会の学術的発展のための特集とすることに加えて、若手活性化委員会の活動理念を共有した過去の若手活性化委員会構成員および若手会員のキャリアパスの形成にもつなげることを今回の若手特集においても目指す。

また、若手特集への投稿条件については、若手会員への支援を積極的に提供するために、今回の若手特集においても、これまでの投稿条件を継承する。したがって、若手活性化委員会が担当する研究会（開催予定：2024年12月21日（土）、大阪教育大学、対面開催（一部オンライン））での研究発表が今回の若手特集の投稿条件となっている。研究会での研究発表だけでなく、筆頭著者が「若手」であることも投稿条件である。ただし若手活性化委員会の内規におけるベストプレゼンテーション賞の

受賞者条件の改訂に伴い、今回の若手特集から、修士課程、博士課程、専門職学位課程のいずれかの修了または退学後8年未満の会員にも新たに投稿資格を付与する。詳細は、下記の投稿条件を確認されたい。若手特集は、重要性がより増してきている学位取得に向けた若手会員の足掛かりとなり、そして科学教育という学術領域の一層の充実と発展を促す場となることを目指している。多くの若手会員からの投稿を期待している。

特集編集部会の構成メンバー

部長：山本輝太郎（金沢星稜大学）

副部長：服部裕一郎（岡山大学）、荒谷航平（北海道教育大学）

特集編集部会委員：（調整中）

投稿条件

以下の（1）～（3）の3点の条件すべてを満たした論文投稿を受け付けます。これらの条件を満たしていないと判断された論文につきましては、一般論文としての査読対象とさせていただきます。あらかじめご承知おきください。

- （1）以下の（a）、（b）、（c）のいずれかを満たす学会員が、投稿論文の筆頭著者となっていること。
  - （a）投稿締切日時点で、39歳以下である。
  - （b）投稿締切日時点で、修士課程、博士課程、専門職学位課程のいずれかに在学している。
  - （c）投稿締切日時点で、修士課程、博士課程、専門職学位課程のいずれかを修了または退学後8年未満（※1）であるか、博士の学位取得後8年未満（※2）である。

（※1）投稿締切日までに修士課程、博士課程、専門職学位課程のいずれかを修了または退学後に取得した産前・産後の休暇、育児休業の期間を除くと修了または退学後8年未満となることを含む。

（※2）投稿締切日までに博士の学位を取得見込みの者及び博士の学位を取得後に取得した産前・産後の休暇、育児休業の期間を除くと博士の学位取得後8年未満となることを含む。

- （2）若手活性化委員会が担当する研究会（開催予定：2024年12月21日（土）、大阪教育大学、対面開催（一部オンライン））で、筆頭著者として研究発表を行っていること。

- （3）上記（2）の研究発表内容に基づいた論文であること。

事前申込締切：2025年2月末日

限られたスケジュールの範囲で査読プロセスを円滑かつ確実に進めるため、事前申込を必須とします。投稿を予定している方は大変お手数ですが、メールタイトルを「特集：次世代を担う若手研究者の科学教育研究の事前申込」とし、以下の事前申込内容を [jsse-hen \[atmark\] nacos.com](mailto:jsse-hen[atmark]nacos.com) までお送りください。

---（事前申込内容ここから）

特集：次世代を担う若手研究者の科学教育研究の事前申込

- ・著者名・所属：
- ・仮タイトル：
- ・論文種別：
- ・E-mail アドレス：
- ・電話番号：
- ・連絡先住所：
- ・投稿条件（1）について：

※満たしている項目の [ ] 内に●を記入してください。

- [ ] (a) 投稿締切日時時点で、39 歳以下である。
- [ ] (b) 投稿締切日時時点で、修士課程、博士課程、専門職学位課程のいずれかに在学している。
- [ ] (c) 投稿締切日時時点で、修士課程、博士課程、専門職学位課程のいずれかを修了または退学後 8 年未満（※1）であるか、博士の学位取得後 8 年未満（※2）である。

（※1）投稿締切日までに修士課程、博士課程、専門職学位課程のいずれかを修了または退学後に取得した産前・産後の休暇、育児休業の期間を除くと修了または退学後 8 年未満となることを含む。

（※2）投稿締切日までに博士の学位を取得見込みの者及び博士の学位を取得後に取得した産前・産後の休暇、育児休業の期間を除くと博士の学位取得後 8 年未満となることを含む。

---（事前申込内容ここまで）

投稿受付開始：2025 年 1 月 1 日

投稿締切：2025 年 3 月 31 日

\*特集に投稿する場合は、投稿システムの「手順 5：設問」画面の「掲載号」で「特集号」を選択してください。

\*投稿論文には、日本科学教育学会研究会研究報告に加筆した旨の記載をお願いします。（執筆要領 4. (2) 参照）

\*査読は、投稿締め切り後に開始します。

発刊予定：2025 年 12 月

投稿論文の取り扱い

本特集の刊行までに採択されない投稿論文については、一般論文としての査読を継続いたします。

以上

1. 新規投稿論文（2024.10. 1～2024.11.30）：33 編

【内訳】

和文 32 編

英文 1 編

2. 査読中論文（2024.11.30 現在）：35 編

【内訳】

著者に差し戻し中（受付前）：0 編

担当編集委員選出中：1 編

査読者選出中：3 編

査読者諾否待：2 編

査読中（1 回目）：24 編

担当編集委員による第 1 審総合判定中：1 編

改訂稿待ち：2 編

査読中（2 回目）：1 編

担当編集委員による第 2 審総合判定中：1 編

編集委員長による最終判定中：0 編

3. 掲載決定論文（2024.10. 1～2024.11.30）：5 編

【内訳】

研究論文：5 編

総説・展望：0 編

資料：0 編

プラザ：0 編

【合計】

48-4 号：2 編（通算 16 編）

49-1 号：3 編（通算 3 編）

4. 投稿状況及び掲載決定状況の推移 (2021.11.1~2024.11.30 現在)

(2024年11月30日 現在)

	新規投稿論文数 (編)		審査中 (編)		掲載決定論文数 (掲載号)		掲載不可論文数 (見なし取り下げを含む)	
	和文	英文	和文	英文	和文	英文	掲載不可	取り下げ
2021年 11月	13	0	29	0	0 (45-4)	0 (45-4)	2	0
2021年 12月	6	0	30	0	0 (46-1)	0 (46-1)	3	0
2022年 1月	6	0	24	0	2 (46-1)	0 (46-1)	9	0
2022年 2月	5	0	24	0	0 (46-2)	0 (46-2)	3	0
2022年 3月	17	0	29	0	1 (46-1)	0 (46-1)	5	1
2022年 4月	15	0	38	0	2 (46-2)	0 (46-2)	5	1
2022年 5月	7	0	40	0	0 (46-3)	0 (46-3)	4	0
2022年 6月	8	0	44	0	1 (46-3)	0 (46-3)	3	0
2022年 7月	4	0	31	0	0 (46-4)	0 (46-4)	9	0
2022年 8月	11	0	28	0	1 (46-3)	0 (46-3)	8	1
2022年 9月	4	0	21	0	4 (46-4)	0 (46-4)	2	0
2022年 10月	11	0	25	0	0 (46-3)	0 (46-3)	6	1
2022年 11月	12	0	31	0	0 (47-1)	0 (47-1)	4	1
2022年 12月	6	0	34	0	1 (47-1)	0 (47-1)	2	0
2023年 1月	7	0	30	0	0 (47-2)	0 (47-2)	9	0
2023年 2月	8	0	31	0	2 (47-1)	0 (47-1)	3	0
2023年 3月	17	0	35	0	4 (47-2)	0 (47-2)	8	0
2023年 4月	19	0	48	0	5 (47-2)	0 (47-2)	4	1
2023年 5月	11	0	43	0	0 (47-3)	0 (47-3)	11	2
2023年 6月	6	0	41	0	3 (47-3)	0 (47-3)	4	0
2023年 7月	5	1	39	1	1 (47-4)	0 (47-4)	3	1
2023年 8月	8	0	36	0	2 (47-3)	0 (47-3)	7	0
2023年 9月	4	1	29	1	5 (47-4)	0 (47-4)	5	0
2023年 10月	18	0	36	1	6 (47-4)	0 (47-4)	5	0
2023年 11月	20	0	53	1	1 (48-1)	0 (48-1)	1	2
2023年 12月	4	0	52	1	0 (48-2)	0 (48-2)	4	0
2024年 1月	7	0	51	1	1 (48-1)	0 (48-1)	6	2
2024年 2月	13	0	53	0	0 (48-2)	0 (48-2)	7	0
2024年 3月	21	0	55	0	2 (48-1)	1 (48-2)	5	4
2024年 4月	26	0	56	0	5 (48-2)	0 (48-2)	15	1
2024年 5月	10	0	43	0	3 (48-3)	0 (48-3)	17	1
2024年 6月	9	0	42	0	1 (48-3)	0 (48-3)	5	0
2024年 7月	7	0	41	0	1 (48-4)	0 (48-4)	5	1
2024年 8月	3	0	31	0	0 (48-3)	0 (48-3)	6	0
2024年 9月	2	0	21	0	7 (48-4)	0 (48-4)	7	0
2024年 10月	19	0	32	0	0 (48-3)	0 (48-3)	5	0
2024年 11月	13	1	35	0	2 (48-4)	0 (48-4)	9	0

### 広報委員会からのお知らせ

科学教育研究レター第 270 号をお届けします。一般社団法人日本科学教育学会の広報活動についてお気づきの点などがございましたら、学会 Web サイトにある「お問い合わせ」をご利用のうえ、お知らせください。

担当理事： 大貫麻美（白百合女子大） 向 平和（愛媛大）

委 員： 山口悦司（神戸大） 三宅志穂（神戸女学院大） 舟生日出男（創価大）  
中村大輝（宮崎大） 日下智志（鳴門教育大） 増田有紀（埼玉大）  
袴田綾斗（高知大）

幹 事： 谷塚光典（信州大） 榎本哲士（信州大） 村田翔吾（日本体育大）  
後藤みな（山形大）

科学教育研究レター編集 日本科学教育学会広報委員会

一般社団法人日本科学教育学会

Japan Society for Science Education

URL : <http://www.jsse.jp>

□ 事務局 中西印刷（株） 学会部 内

TEL : 075-415-3661 FAX : 075-415-3662

E-mail : [jsse \[at mark\] nacos.com](mailto:jsse[at mark]nacos.com)

〒602-8048 京都市上京区下立売通小川東入ル

□ 編集事務局（論文投稿・査読編集）

TEL : 075-415-3155 FAX : 075-417-2050

E-mail : [jsse-hen \[at mark\] nacos.com](mailto:jsse-hen[at mark]nacos.com)

中西印刷（株） 学会部 内

〒602-8048 京都市上京区下立売通小川東入ル

郵便振替口座：00170-6-85183 一般社団法人日本科学教育学会

銀行口座：みずほ銀行 京都中央支店 普通 2419484 一般社団法人日本科学教育学会